

平成28年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立三池高等学校長 印

70

学 校 運 営 計 画				評 価(3月)	
学 校 運 営 方 針		県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。			
昨年度の成果と課題		年 度 重 点 目 標		具 体 的 目 標	
学習指導は一定の成果を収めたが、表現力の育成については、授業改善を含めたさらなる工夫が必要である。 引き続き、部活動、生徒会活動、学校創立百周年行事に向けた取組等とおして、主体的に活動する生徒の育成を図って行きたい。		確かな学力の育成		学ぶ意欲をかきたてる魅力ある授業や個別指導を通じて、知識・技能を修得させ、思考力・判断力・表現力を向上させる。	
		キャリア教育の充実		3年間を見通したキャリア教育により、生徒が主体的に進路を選択し、将来にわたって自己を高めることができる能力を身に付けさせる。	
		生徒会活動の活性化、安全に対する意識の向上		生徒の主体的活動を促すため、生徒会活動のさらなる活性化を目指すとともに、交通安全を含む危機管理意識の向上を図る。	
		地域・同窓生との連携		創立百周年に向けて、全校あげでの組織をつくり、準備を強化する。	
評 価 項 目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価 (3月)	次 年 度 の 主 な 課 題
学力向上	基礎・基本の充実	・授業規律、教室環境の整備、挨拶の徹底を学年部や健全育成部と連携して指導する。		B	・職員の努力により授業については、ICTを活用するなど創意工夫がなされている。これからも授業規律の確立、家庭学習習慣の確立をいかに行うかを考える。 ・生徒減に伴い職員数が少なくなっている現状で、時間割編成が複雑になっており、授業担当者の時間割変更が厳しい状況が生じている。 ・現状の職員数の状況の中で学校の実態に応じたカリキュラムを考えていく。 ・校内の教務関係の書類については様式の簡略化を図る。 ・平成30年度実施に向けた新しい教育課程の検討を行う。
		・基本的な生活習慣の中に学習時間を確実に位置づけさせるとともに、学習習慣の定着度を分析し、授業改善に反映させる。		B	
	思考力・判断力・表現力の育成	・各教科で「思考・判断・表現」の観点に係る問題を少なくとも1題は定期考査に入れる。		B	
		・ICTの活用や言語活動の充実に留意した授業を行う。		A	
導入期及び学期節目や学年移行期の指導の充実	・高校3年間の指導計画、評価観点・評価方法等を生徒に説明し、見通しを持って生徒が授業に臨めるように工夫する。		C		
	・授業アンケートで生徒の理解度や意欲を確認し、その結果を年間指導計画表に反映させる。		B		
企画・広報	学校行事等の迅速な準備と正確な記録、円滑な運営	・各行事の計画を2ヶ月前から行い、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。		A	・各行事の計画は、概要を年度当初に行い、2ヶ月前から本格的に行うことによって、準備・活動に無理が生じないように行事の見直しを行う。 ・広報活動の迅速化、範囲拡大(小学生)を図る。 ・各広報紙(三高だより、総合新聞)を中学校への広報活動として活用する。 ・創立百周年事業に関連し、委員会や同窓会、PTAとの連携を強化する。
		・父母教師会行事の円滑な運営を補佐することとおして保護者との共通認識を深める。また、創立百周年に向けて同窓会との連携を図る。		B	
	入学者選抜の志願者倍率1.2倍超	・広報紙を計画的に発行するとともに、中学校訪問や塾訪問を計画的に行い、本校の良さを中学生やその保護者、地域に伝える。		B	
		・学校ホームページの更新を週1回以上行い、生徒の活動の様子や本校の教育活動の特徴等を好時機にPRする。		A	
キャリア育成	進路(キャリア)意識の高揚	・「総合的な学習の時間」(「志講演」を含む。)を充実させ、計画的に運営することにより進路(キャリア)意識の高揚を図る。		B	・総合的な時間については、各学年計画的に実施している。3年間を見通したより具体的な目標をあげ、各学年ごとに、主体的な活動を行わせ、進路選択に結びつくように実施していきたい。 ・すべての学年で、11月の進研模試の目標達成ができなかった。分析会や教科会、学年会で分析、検討を行っているが、より効果的、効率的に生徒を伸ばす授業、補習や個別の取り組み等、具体的な改善を行っていく。
		・学年別進路講演会や保護者会などを通じて保護者との情報を共有を図り、家庭におけるキャリア教育を推進する。		A	
	個に応じた指導の徹底	・模擬試験成績の早期分析により個々の課題を明確にするとともに、教科会で十分に検討して、すべての教科で教材や授業内容を改善する。		B	
		・三者面談、教科担当者による面談を計画的に実施するとともに、生徒の進路実現に向けて、緊密な情報交換により全職員共通した指導を行う。		A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
研修・図書	職員の資質の向上	・いじめ防止や特別支援教育の充実などの今日的な課題に関する研修を計画的に実施する。	B	B	A	・総合文化発表会や合同研修会での図書委員会の主体的取組がみられた。百周年記念カルタの読み札も完成した。絵札も間もなく完成するので、今後はカルタの製品化を行う。カルタをはじめ、百周年の内外へのPR活動を実施する。 ・教育センター等の外部での研究授業やICT教育、人権教育等の研修会への積極的参加を呼びかけ、授業改善や教育力向上を図る。
		・教科の目標を明確に示して、その達成度を客観的に判断できる研究授業及び授業アンケートを実施する。	B			
	読書の推進	・朝読書を通して、生徒の読書に親しむ態度を育成する。	A	A		
		・読書推進の活動を生徒(図書委員会)主体で実行し、図書館だより等を定期的に発行する。	A			
健全育成	生徒会活動の充実、部活動の活性化	・生徒会や各種委員会の年間計画の立案により、主体的に活動させるとともに、生徒会役員を中心に学校行事を自主的に運営させる。	A	A	A	・生徒会執行部を中心に、創立百周年にふさわしい生徒達の主体的活動を支援していく。 ・従来の「総合文化発表会」を見直し、クラス参加を含めた「三高祭」を実施する。 ・生徒数減に伴う部活動数の削減を継続して検討する。 ・部活動加入率80%以上を継続して達成するため、部活動紹介等を工夫する。
		・体験入部期間を設けて、部活動の加入率を運動部55%、文化部25%以上とし、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を行う。	A			
	安全教育の徹底による事件・事故等の未然防止	・全校集会や学年集会、ホームルーム活動等で安全教育を行い、自他への思いやりや命の尊さに対する生徒の意識を高める。	B	B		
		・「自転車教室」や「サンデースクール」の実施等により交通安全の意識を高めさせ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。	B			
健康・安全	生徒の健康維持増進	・保護者と連携し、各科の健康診断毎に治療勧告を行うことで早期治療及び事後処置の徹底を図る。	A	A	A	・危険箇所改善に向けて、職場安全チェックを年に2回全職員で実施する。 ・掃除は、指導の徹底と掃除区域の再検討を行う。 ・継続して救急救命講習会を職員研修として、また百周年行事の成功に向け月一大掃除の日時の設定を検討する。 ・ゴミ削減に向け、年度当初にゴミレクチャー活動を行う。 ・保健委員会と美化委員会との連携を図る。
		・教育相談委員会(いじめ問題対策委員会)等を定期的実施して早期発見・早期対応に備えるとともに、長期欠席防止やいじめ防止等に努める。	A			
	教育環境の整備	・外部講師による講演やホームルーム活動における講話、保健委員会活動の活性化により、生徒全員に自己管理意識を高めさせ、事故防止を図る。	A	B		
		・月一大掃除の実施や、ゴミの持ち帰りの徹底や減量化に向けた美化委員による活動を行う。	B			
同窓会	創立百周年準備	・平成29年の創立百周年に向けて、実行委員会の組織をさらに充実させ、記念事業等についての計画を確定して実行段階に進める。	B	B	B	・百周年校内実行委員会と同窓会の連携を深め、創立百周年記念行事の円滑な遂行を図る。
学年運営	(第1学年) 基本的な生活習慣の確立及び基礎学力の充実	・家庭学習時間の定着と三池高校生らしい生活を送らせる。 ・自己管理能力を向上させるとともに、自らを見つめる機会をつくる。 ・英数国を中心とした家庭学習習慣の確立を図る。	B	B	A	・第1学年については、主体的な活動がさらにできるよう継続して指導していきたい。学習面では、学力下位層の引き上げに指導の重点を置きたい。 ・第2学年については、次年度の最上級生としてふさわしい言動・行動ができるよう指導したい。今年度の学校行事については大きな成果があった。学力については目標に到達していないので、進路意識高揚も含めた学力向上を図っていきたい。 ・第3学年については、創立百周年の様々な行事をとおして主体的に取り組む態度を身につけさせることができた。1年次では特に生活面での規律遵守が大切であり、3年間を見越した計画的な指導が必要である。
	(第2学年) 規律ある生活習慣の確立及び学力の充実	・生徒の実態を適宜把握し、主体的に活動できるような生徒の育成を図る。 ・進取・至誠・自治の精神を身に付けさせる。 ・将来の在り方、生き方について真剣に考えさせる。	B	B		
	(第3学年) 豊かな人格の育成、最上級生としての意識の確立、希望進路の実現	・全ての教育活動をとおして、自ら考え判断し、適切に行動できる力を育成する。 ・二者面談等を通して、自立を促す個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・生徒を促して、主体的な学習を实践させる。	A	A		
	(全学年共通) 職員の共通理解及び家庭との連携	・生徒一人一人の変化を見逃さず、きめ細かな指導を行う。 ・職員間の共通理解の下、すべての職員が協力して指導に当たる。 ・三者面談や学年保護者会等を通して、本校教育活動に対する保護者の理解を深め、家庭との連携を図りながら、個に応じた指導の徹底を図る。	A	A		